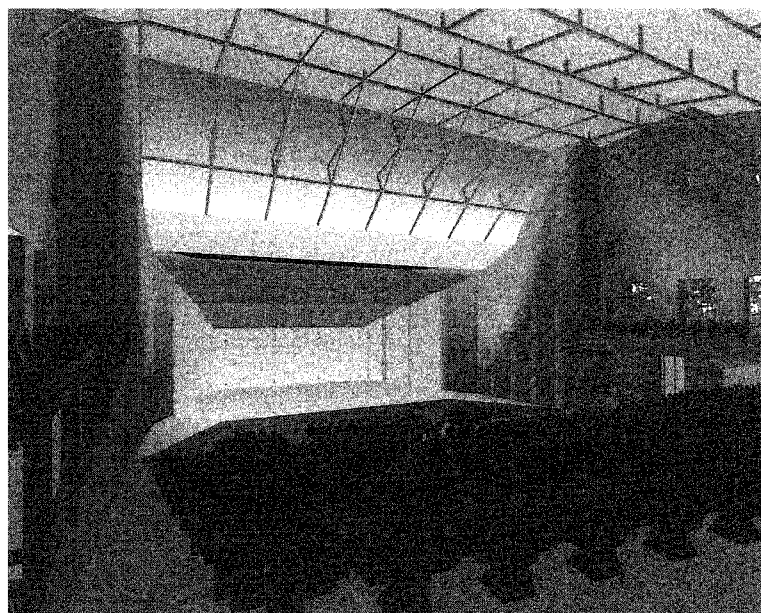


文化ホール紹介 VOL. 1



大ホール内部完成予想図（音響反射板設置時）

「視・聴かせるホール」

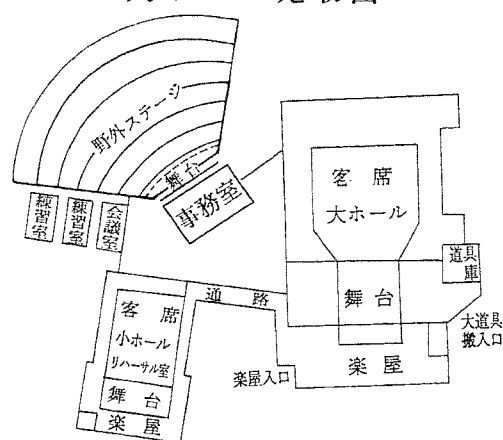
大ホール

ホールの「音」は「ホールの形」で決まるといわれています。響きの長さ、音の明瞭性、空間的な広がり感は、ホールの形による音の反射の仕方によって生まれてきます。舞台はプロセニウム形式とし、オーケストラと合唱団が同時に演奏できる広さを確保し、音響反射板の設置によってシューボックス型のコンサートホールに近い形態を実現、また、演劇、ミュージカルにも対応出来る様にオーケストラピットを設置し、市民の皆さんの多様なニーズにこたえられるように計画しています。客席は視覚的にも音響的にも均質な状態を確保しやすいワンスロープ型とし、客席寸法は、巾50cm、前後間隔950cmとゆったりとした配置とします。また、サイドバルコニー席。ボックス席を配し雰囲気添えます。仕上に木を使用することにより、響きのよいホールを実現し、壁面には開口部を設け外部の自然環境と一体化した開放的な空間を演出します。常に最高の鑑賞条件で舞台芸術を鑑賞してもらうことが、舞台愛好者を育てるための必要条件です。

※次回は小ホールについて紹介します。

クラシック、ポップス、民謡、古典音楽、オペラ、そして能など日本の伝統的な古典芸能そして演劇やバレエ……多彩な「歓喜」が文化ホールの舞台で演じられます。今回は、そんなパフォーミングアートのステージになる大ホールの施設を紹介します。

大ホール見取図



大ホール概要

- ♪客席数 824席
- ♪舞台 奥行：12m 全幅：32m
間口：18m 高さ：9m
プロセニウム形式
- ♪残響時間 空席時 約2.0秒(500Hz)
満席時 約1.7秒(500Hz)
- ♪舞台設備 音響反射板、吊物バトン 照明バトン、各種幕類、オーケストラピット
- ♪その他 主催者事務室、楽屋(4室)、出演者ラウンジ、映写室、音響調整室、調節室、クロック、喫茶コーナー、車イス用スペース

オーケストラピット

舞台と客席の間に位置し、オペラやミュージカルを上演する際にオーケストラが入るスペースです。通常は客席として利用し、オーケストラが入る場合には床を下げて使用します。

残響時間

ホールの音の響きの長さを言い、通常クラシック音楽用には長めの残響時間が、また、演劇や講演用には短めの残響時間がよいとされています。本ホールは音楽を主目的とし、1.7秒というコンサートホールなみの残響時間を設定しています。

音響反射板

コンサートの際に、演奏者の音を有効に客席に送り込むための可動式の壁面及び天井で、演劇等の演目に対しては舞台上部及び後部に収納し、舞台全体を広く使うことが可能です。

プロセニウム

観客の視線から舞台裏をかくすための額縁で、オーケストラの演奏には広く高いプロセニウムが、また、演劇等には一般にある程度小さなプロセニウムが適しています。本ホールでは間口18～15m、高さ9～7.5mに調整可能です。